

にんぎょうとうげ



発行： 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

人形峠環境技術センター開所60周年記念式典及び施設見学会開催

人形峠で昭和30年にウラン鉱床の露頭が発見され、ウラン資源のエネルギー利用に向けて国内の期待が集まる中、昭和32年8月1日に岡山県苫田郡上齋原村(現鏡野町)に、原子燃料公社人形峠出張所を開所しました。その後、地元の皆様のあたたかいご支援を賜りながら技術開発の事業を拡大し、おかげさまで今年開所60周年を迎えることができました。

その記念行事として、9月26日に「人形峠環境技術センター開所60周年記念式典及び施設見学会」を行いました。

記念式典では、青瀬所長より、この地で60年に渡り事業を継続させて頂いたことへの感謝と「住民の方々が安心・安全と思われるように作業を進めていきたい」との決意表明を行いました。また、来賓を代表して山崎鏡野町長、吉田三朝町長より、60年を振り返り、あたたかいご祝辞をいただきました。



青瀬所長挨拶

その後、スライドショーや元所長の黒沼氏等による講演により「人形峠あゆみ、これから」について紹介しました。

また、式典会場では、懐かしい写真、模擬坑道、ウランガラス(妖精の森ガラス美術館の作品)なども見学していただきました。



これまでの懐かしい写真展示風景

施設見学会では、鏡野町、三朝町より97名の参加をいただき、午前、午後各2班に分かれて、ウラン濃縮原型プラントの遠心分離機などの見学と各施設の役割や現在の状況の説明を行いました。参加者の方から、沢山ご質問いただき興味深く見学していただきました。

開所60周年記念イベントは、晴天の秋空にも恵まれ、たくさんの方に参加いただき盛況に終わることができました。

今後とも事故・トラブル等を起こさないように安全には十分注意して業務を遂行できるように取り組んでまいります。

(人形峠環境技術センター)

人形峠自然百景

『リンドウ(竜胆)』

リンドウ科リンドウ属の多年生植物で湿った野山に自生する。

花は晴天の時だけ開き、釣り鐘型のきれいな青紫色で、茎の先に上向きにいくつも咲かせる。

人形峠センター内では、日当たりの良い道路わきや草原で広く見ることができる。

花期は10月～11月



リンドウ

シリーズ 人形峠 今昔物語

～第3回「大型核燃料施設の建設・運転(1979年～2001年)」～

1975年頃に入るとウラン鉱山開発が徐々に下火となり、新たな事業として製錬・転換、ウラン濃縮の技術開発のための大型プラントが建設され、人形峠の風景も大きく変わっていきました。これらのプラントは、日本のエネルギー政策の中で核燃料サイクルの輪を形成する重要な役割を果たしました。

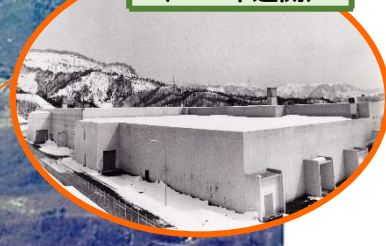
製錬転換施設(1982年運開)



イエローケーキを受入れて六フッ化ウランを製造。平成11年に運転終了するまでに天然及び回収ウラン約680ton-Uのウラン転換を行い、技術実証しました。

建設地

ウラン濃縮パイロットプラント (1979年運開)



1982年に全面運開。ウラン中の235ウランの濃度を原子力発電所の燃料に使用できる数%まで高めた濃縮ウランを製造する試験を実施し、技術基盤を確立しました。

人形峠レストハウス

旧国道179号線

旧事務所

建設地

1975年頃の人形峠



建設中の製錬転換施設(1980年頃)



ウラン濃縮パイロットプラント造成工事(1977年頃)



製錬転換施設で製造した六フッ化ウランをウラン濃縮パイロットプラントへ(1982年)

